

国立国際医療研究センター国府台病院における教育の概要 【ラダーレベル毎の目標】

教育目的 国立国際医療研究センター国府台病院が提供する医療を理解し、専門職業人としての認識を高め、質の高い看護サービスを提供できる看護師を育成する

- 教育目標
1. 国立国際医療研究センターおよび看護部の理念や方針を理解し、実践できる能力を養う
 2. EBNに基づいた専門知識と看護技術・判断力を持ち、問題解決する能力を養う
 3. 看護の質を向上するため、管理能力を高め教育や研究活動に取り組む態度を育成する
 4. 看護師として高い倫理性を備え主体的に学び、自己研鑽する態度を養う

期待する看護師：心と体、人間を全人的に理解しあたたかい看護を誠実に実践する看護師

ラダー	レベルⅤ	ケアの受け手や状況の関連や意味をふまえてニーズをとらえる	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種と力を引き出し連携に活かす	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる	倫理的視点に基づく看護実践の役割モデルとしての行動をする	自己のキャリア形成を明確にし、役割モデルを果たす	自部署のケアの評価を行い、看護の質を高めるための方策をスタッフ巻き込んで取組める	自部署でスタッフが主体的に後輩を育てる環境(教育計画)を整える	看護研究に取り組み発表する	自部署の課題へ向けて他部門と調整しながら解決行動が取れる	経営改善に取り組む	自部署の安全・感染予防管理のシステムに関する問題提起をする	看護の専門性に関する自己の課題の解決および国府台病院に期待される役割を担うための計画的に院外研修に参加する	
	レベルⅣ	ケアの受け手や状況を統合しニーズをとらえる	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	倫理的問題の解決に向けた行動を取る	キャリア形成についての展望を持ち、自己研鑽する	自部署のケアの評価を行い、看護の質を高めるための行動がとれる	看護学生・後輩の指導者としての役割を果たす	看護研究に取り組む	自部署の目標達成へ向けて看護メンバーに対してリーダーシップを発揮する	業務改善に取り組む	自部署の安全・感染予防管理に関する問題提起をし、改善策を提案する		
	レベルⅢ	ケアの受け手や状況の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況の特性をふまえた看護を実践する	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手や周囲の人々に必要な情報提供や場の設定ができる	看護倫理上の問題に気づき、問題提起する	日々の経験を意図的に看護実践に活かし、自己の看護観を高める	ケアの評価を行い、看護の質向上に向けた改善の手立てを提案する	看護学生・後輩の学習を支援する	自己の看護実践を意味付できる	自部署の目標達成のために役割遂行する	診療報酬と看護実践の関連について理解する	安全に関する事実の追究と問題分析・感染予防管理に関する自部署の課題に気づける		
	レベルⅡ	ケアの受け手や状況のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況に応じた看護を実践する	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	看護倫理上のジレンマを表現する	自己の看護の振り返りを習慣づける	ケアの向上のための改善点に気づく	看護学生・後輩の心身の変化をきかける	自己の課題を見出し文献等で学習できる	国府台病院・看護部・自部署の目標を理解し、目標達成に向けて行動する	医療用消耗品・医療用機器を管理する	安全対策の実施・感染予防管理に基づいた行動が取れる		
	レベルⅠ	助言を得てケアの受け手や状況にニーズをとらえる	助言を得ながら安全な看護を実践する	関係者と情報共有ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	患者の視点で看護を考える	支援を受けながら自己の看護を振り返る	看護ケアの質の評価や改善の必要性を理解する	看護学生に自ら声をかける	文献、資料等で日々の看護に必要な知識を得る	国府台病院・看護部・自部署の目標を知る	コスト意識を持つ	安全管理・感染予防体制を理解し、助言を得て行動する		
		ニーズをとらえる力	ケアする力	協働する力	意思決定を支える力	倫理	看護観	看護の評価	教育	研究	組織目標	業務・経営	医療安全・感染対策	ここを 見る看護	からだを 見る看護
		看護の核となる実践能力						管理・教育		問題解決・研究	国府台病院職員としての役割・責務の遂行		国府台病院の専門性		
		看護の知識・技術				看護倫理・キャリア形成									